

和光市デジタルミュージアム紀要

第4号



目次

<論稿>

下新倉の水神について

安井 翠 p 1

<研究ノート>

午王山遺跡出土遺物の文化財指定に伴う資料整備について

大内一雄 p 39

<資料紹介>

伝牛房遺跡出土土器について

安井 翠 p 53

<実績報告>

平成 29 年度 和光市埋蔵文化財調査年報

江口やよい p 61



2018.3

和光市教育委員会

序文

和光市では郷土のゆかりの貴重な文化財などを、後世に伝え活用するために、多くの方々から資料の委託や寄附をいただき、これまで文化財保存庫に収蔵してきました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様をはじめ多くの方々にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくため、Web上で「和光市デジタルミュージアム『れきたま』」の配信を開始しました。平成24年4月1日の配信開始以来、年間約20,000件閲覧していただいております。そして、『れきたま』の充実を図るべく、「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、併せてWeb上において公開をしてから今年度で第4号となりました。本紀要は、和光市文化財保護行政の1年間の成果となっております。

平成29年度の主な成果として、平成30年2月27日に、和光市指定有形文化財である「午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物」107点を含む計121点の「午王山遺跡出土品」が和光市の文化財として初めて埼玉県指定有形文化財に指定されました。

今回は、文化財指定に向けて行った午王山遺跡出土遺物の資料整備についての研究や新河岸川河川改修工事のため移動を余儀なくされた下新倉の水神についての論稿を掲載いたしました。また、市民の方に寄附していただきました伝牛房遺跡出土土器の資料紹介、さらに、平成29年度の埋蔵文化財調査年報も併せて掲載いたしました。

有形・無形文化財、民俗的文化財など先人の残した文化財は、本市の貴重な財産であり、後世に残していく責任があります。また、このような文化財の蓄積は、当市の歴史や文化財を学び理解していただく上で有効なものであると考えています。

最後になりましたが、本紀要の刊行にあたりまして日ごろからご指導いただいております埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、和光市文化財保護委員会委員各位、また、公私ともご多用の中、たくさんのご教示・ご高配を賜りました関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます、あいさついたします。

平成30年3月
和光市教育委員会
教育長 戸部 恵一

